

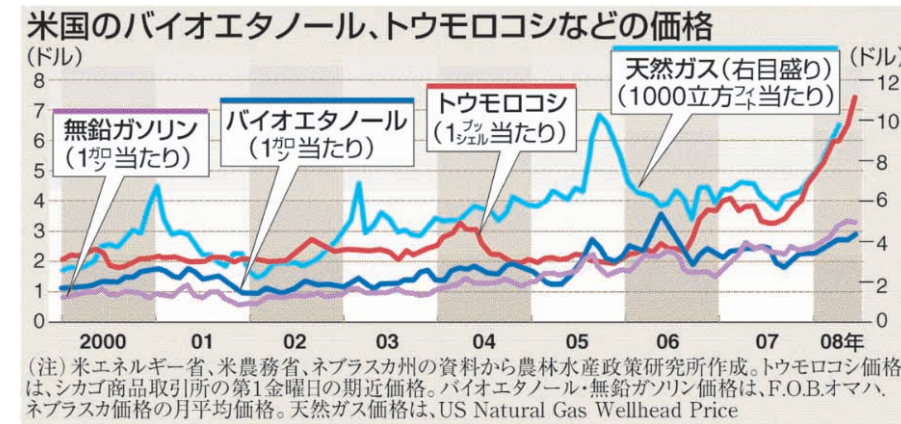
ファンダメンタルズ分析 穀物編 エネ・新興国 急膨張 世界経済のダイナミズムを読む

大豆やトウモロコシに代表される農産物先物の価格を予測する上で、産地の天候は極めて重要なファクターです。しかし近年ではバイオエタノールの生産・消費動向とそれに関連する政策やインフラの整備、また穀物消費の面で新興大国であるBRICs（ブラジル・ロシア・インド・中国）の一手一投足が重大なファンダメンタルズとして注目を浴びるようになっていきます。

バイオエタノールの増産

バイオエタノールは、石油、石炭、天然ガスといった化石燃料とは異なる生体物（バイオマス）由来の燃料です。地球温暖化の危惧など世界的な環境意識の高まりの中で、燃焼させても温室効果ガスの一つである二酸化炭素を増やさないバイオ燃料は、新エネルギー源として将来性が期待されています。そのバイオ燃料の主軸がバイオエタノールです。

バイオエタノールは、理論上は炭水化物を含む、すべての生物資源から生産が可能です。コメでもわらでも廃棄食材でも良いのですが、生産効率を考えると糖質やでんぷん質を多く含む原料がより適しています。トウモロコシはそうした原



料の一つで、実に含まれる高純度のでんぷんを取り出し、発酵させ、蒸留してエタノールを作ります。

近年、バイオエタノールが世界中の関心を集めたのは、米国で2005年に「エネルギー政策法」が発表されたときでした。同法は12年までに「再生可能燃料」の使用量を75億ガロンまで増やすとの目標を掲げています。再生可能燃料とは、いずれ枯渇する化石燃料とは異なり、再生産できる資源を原料とするバイオ燃料のこと。法律の文書にはカッコ書きで「主にエタノール」と書きこまれています。

また07年にはブッシュ大統領（当時）が年頭の一般教書で「ガソリン消費量の

20%を今後10年間で再生可能燃料に置き換える」方針を発表しています。結果、06年末に1ガロン（約25.4kg）＝3ドル50セント～3ドル60セント近辺で推移していたトウモロコシ価格（シカゴ市場、期近）は、2月末には4ドル30セントまで上昇しました。

トウモロコシ価格の高騰は大豆にも無関係ではありません。トウモロコシの高値は農家の生産意欲を刺激しますが、2つの作物の耕作地は共通であるため、トウモロコシ増産は大豆減産を意味し、大豆価格が高騰する図式です。

BRICsと需給の変化

BRICsは合計30億の人口を有する

新・商品先物入門

日本商品先物振興協会

小島 栄一

巨大な国家群です。そのBRICsが急激な工業化を背景に、それまで世界経済を牽引してきた、わずか8億人の先進国に肩を並べてきたのです。

生産面では資源の獲得競争が激化し原油や金属資源などの価格を高騰させます。同時に工業化の進展は国民を富裕化させ、食糧消費の増大と質の変化をもたらしているのです。具体的には食肉需要の増大ですが、食肉生産には飼料としてのトウモロコシと大豆の消費が大きく関係しています。

昨年夏に起きた資源・食糧など商品価格の急騰は記憶に新しいところですが。原因を過剰な投機に帰する声は少なくありません。しかし背景には、BRICsの台頭による世界的なモノの需給構造の変化があるのです。

いま、われわれは世界経済のダイナミズムを目の当たりにしています。その中でモノの価格を予想し投資する—それが商品先物取引のおもしろさです。